地域の魅力詰め込んだ「ほんでら春フェスタ」開催
ハンドクラフトとライブステージを満喫

「ほんでら春フェスタ」は3月8日、骨寺村荘園交流館で行われ、市内外から訪れた約300人がイベントを楽しみながら本寺の魅力に触れました。

趣味をきっかけに、地域の魅力や歴史を知ってほしい―と開いた同フェスタ。女性をターゲットにハンドメイド展、音楽が好きな人たちをターゲットにライブステージを同時開催しました。ライブステージには、ジャズ、ロックやJ-POPなど、多彩なジャンルの4バンドが出演。このうち、市内で活動する「和奏～わかな～」は、荘園の風景を背景に爽やかな歌声を披露しました。来場者は、趣味と本寺の魅力を堪能しました。

健康の森で栗駒山系磐井川流域砂防施設完成式
住民の安全・安心を守る施設の完成を祝う

2008年6月の岩手・宮城内陸地震によって発生した土砂災害の再発を防ぐために工事を行ってきた「栗駒山系磐井川流域砂防施設」の完成式は3月7日、いちのせき健康の森で開かれ、関係者ら約50人が施設の完成を祝いました。

地震は、栗駒山系東側の深さ8キロを震源に発生しました。市内では、最大5強を観測。祭時大橋の崩落や磐井川上流で地滑りが発生するなど、大きな被害に見舞われました。

県と国は約6年半の歳月をかけて、災害復旧工事と砂防えん堤5基を整備。勝部修市長は「流域住民の安心・安全な暮らしに確実につながる」と期待を寄せていました。

緑のふるさと協力隊員・松元美樹さん最後の舞い
華麗な舞に盛んな拍手「一関民俗芸能祭」

第30回一関民俗芸能祭（一関文化祭実行委員会主催）は3月1日、大手町の文化センターで開かれ、訪れた大勢の観客は、神楽や鹿子躍の演舞に拍手を送っていました。

当日は10団体が出演。神話などを題材にした神楽と鹿子躍を各団体が熱演しました。このうち、達古袋地域で緑のふるさと協力隊員として1年間活動していた松元美樹さん（27・鹿児島県出身）が達古袋神楽に出演。「鶏舞」で太鼓を、「弁慶安宅の関」では源義経役を演じました。稽古を重ねた集大成として、見事なばちさばきと華麗な舞を披露。訪れた約400人の観客から喝采を浴びていました。

心に残る感動の舞台「一関藤沢市民劇場」
地元題材の伝説「白沢の杜」を好演

第16回一関藤沢市民劇場「白亜の石階『白沢の杜』」（同実行委員会主催）は2月22日、「縄文ホール」で開かれました。「白沢の杜」は藤沢町西口が舞台。村人が一丸となって白沢神社境内の急斜面に333段の石段を築く物語です。

出演者は落成に沸く村人の姿を熱演。落慶式の場面では、本郷神楽と増沢神楽が奉納の舞を演じて舞台を盛り上げました。カーテンコールでは、出演者が手を取り合って登場。大きな拍手に満面の笑みを浮かべました。

砂子田から訪れた菅原礼子さん（60）は「地域の歴史と良さを再認識することができた」と話していました。

千厩地域市民劇場で第12回どっから座公演
無償の愛演じる主人公が観客を魅了

第12回どっから座公演「ひたむきに生きた娘おかよの物語」（同実行委員会主催）は3月8日、千厩農村環境改善センターで開かれ、訪れた観客は感情豊かな演技に魅了されました。

今回の演題は、千厩・大店鶴屋に奉公に出されたおかよが、つらい境遇に耐えながらひたむきに生きる姿を描いた創作劇。スタッフ90人は、7月から稽古に取り組んできました。舞台では、役者たちが迫真の演技を披露しました。

千厩町千厩の千葉正子さん（60）は「人を思う気持ちに触れ、とても感動しました。力をあわせて取り組んだ団員の皆さんはすばらしいです」と感激していました。

子供の健やかな成長と幸せ願う伝統行事
「一歳児歩き初め会」に県内外の151組参加

「第14回一歳児歩き初め会」は3月7日、厳美町の「道の駅厳美渓」で開かれ、一升の餅を背負った1歳児151組が一生懸命歩きました。

14回を数える同イベントは、一升の餅を背負って歩くことで「一生食べ物に困らないように」と願いを込める地域の伝統行事。法被に鉢巻き姿の1歳児が餅を背負い、家族の温かい声援と拍手を受けながら一生懸命歩きました。

北上市の千葉大賀くん（1歳1カ月）の父・大和さん（28）と母・桃子さん（23）は「しっかり歩いていて、安心して見れた。成長を実感した」とうれしそうに話してくれました。

1年の願い込め、裸男たちが蘇民袋を奪い合う
熱気と歓声に包まれた長徳寺「蘇民祭」

長徳寺（藤沢町保呂羽・渋谷真之住職）の蘇民祭は3月1日に行われ、無病息災や五穀豊穣などの願いを込め、全国から集まった51人の裸男たちが蘇民袋を奪い合いました。

雄子川で身を浄めた下帯姿の男たちは、点火された井桁に積まれた焚場に登る「柴燈木登り」を披露。メインの蘇民袋争奪戦（袋ねじり）では、男たちが体から湯気を立ち昇らせ、激しい奪い合いを繰り広げました。

取主になった菊地義則さん（43・奥州市）は「初めての取主に感激。良い1年にしたい」と喜び、富田文乃さん（58・埼玉県）は「男性の迫力に圧倒されました」と驚いていました。

地域でつなぐ宝物・中里小で鶏舞上演会
中里の鶏舞伝承活動に新たな息吹

中里鶏舞上演会は2月28日、中里小体育館で開かれ、鶏舞の伝承活動に新しい息吹を吹き込みました。

中里地域では、中里中の閉校に伴い、同校が取り組んできた鶏舞を継承しようと卒業生らが鶏舞踊り隊（齊藤裕美会長、会員20人）を組織。新たな伝承活動が始まりました。

当日は、中里小、中里中、鶏舞踊り隊の演舞のほか、招待団体の神楽も上演。訪れた地域住民ら約300人は、躍動感ある舞いに盛んな拍手を送っていました。昨年10月から同隊で活動している会社員の遠藤みゆさん（23）は「地域の宝をつないでいきたい」と力を込めていました。